

瀬戸内海から採集されたカワムラサザナミガイ (軟体動物門, 二枚貝綱, サザナミガイ科)

倉持敦子¹⁾・倉持卓司²⁾・厚井晶子³⁾・長沼 毅^{3)*}

¹⁾ 〒240-0104 神奈川県横須賀市芦名2-6-3-504

²⁾ 葉山しおさい博物館, 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2123-1

³⁾ 広島大学大学院生物圏科学研究科, 〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4

要 旨 カワムラサザナミガイ *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952が[§], 瀬戸内海より採集された。本種の採集記録は少なく, タイプ産地の相模湾のほか, 紀伊半島, 若狭湾と新潟県からの報告があるのみである。瀬戸内海からの本種の採集は初記録であることから新たな分布記録として報告する。

キーワード: カワムラサザナミガイ, 軟体動物, 二枚貝綱, サザナミガイ科, 瀬戸内海

諸 言

カワムラサザナミガイ *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952は, 相模湾をタイプ産地として記載されたサザナミガイ科の一種である (Habe, 1952)。本種の採集記録は少なく, これまでに相模湾 (Habe, 1952; Kuroda *et al.*, 1971; Okutani, 2006) のほか, 紀伊半島, 若狭湾, 新潟県下越および中越海域 (北村・阿部, 2001) から報告されているにすぎない。筆者らは本種をこれまで記録のなかった瀬戸内海より採集したので, 新たな分布記録として報告する。

検討試料

サザナミガイ属 *Lyonsia* Turton, 1822

カワムラサザナミガイ *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952 (Fig. 1)

4個体, いずれもドレッジにて採集

産地: 瀬戸内海 安芸灘 水深42.5m 2個体 (No. 1: L (殻長)=18.6 mm, H (殻高)=11.4 mm, B (殻幅)=5.8 mm, No. 2: L=15.6 mm, H=10.5 mm, B=5.3 mm) (生貝),

芸予瀬戸 水深26.7m 2個体 (No. 3: L=17.6 mm, H=12.3 mm, B=5.8 mm; No.4: L=19.1 mm, H=13.3 mm, B=6.6 mm) (生貝)

記 載

殻は楕円型で前縁は丸く, 後方へ向かいせばまりつつ長く伸びる。後縁は長く, 後端部は截断状になる。左右の殻は密着せず, 後端部で狭く長楕円形に開く。殻頂はやや前方に位置し, 後端部から61%になる。殻質は薄く脆い。殻表は半透明な銀白色。淡黄色の殻皮をもつ。殻表に細くて弱い多くの放射肋がある。生時には, この放射肋に沿って多数の砂粒を付着させ全表面を覆っている。殻内面は, 真珠光沢のある白色。殻頂のやや後ろに靱帯と弾帯とが内在する。左右両殻は, 白色の石灰質化した殻帯で覆われてつながる。鋏歯はない。套線は浅く湾入する。

比 較

これまでに日本周辺海域からサザナミガイ属 (*Lyonsia*) の種は、カワムラサザナミガイ、サザナミガイ *Lyonsia ventricosa* Gould, 1861, シンテイサザナミガイ *L. praetenuis* Dunker, 1882の3種が報告されている (Habe, 1981 ; Higo *et. al*, 1999など) (Fig. 2)。

Habe (1952) は、相模湾より採集された殻長13.1mm, 殻高10.2mmの個体をもとにカワムラサザナミガイを記載した。タイプ標本に比べ、瀬戸内海から採集された個体は、いずれも殻長に対する殻高の高さが若

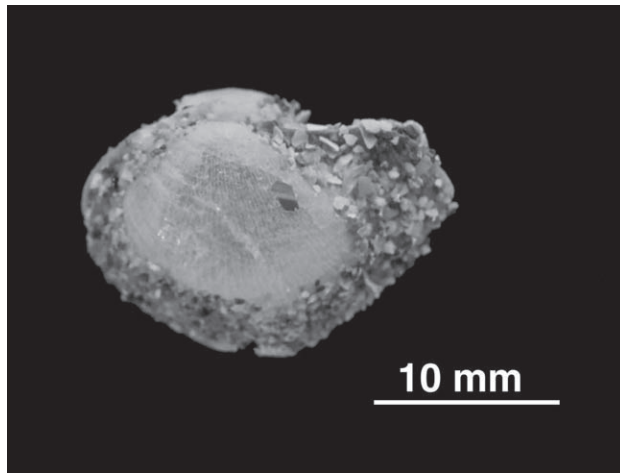


Fig. 1. *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952 collected from the Seto Inland Sea.

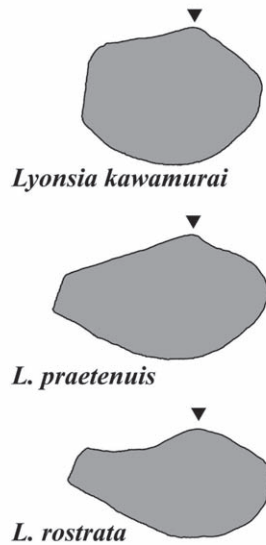


Fig. 2. Comparison of the shell forms of the specimens belonging to the genus *Lyonsia* that have been reported from Japanese waters. The filled-inverted triangle (▼) shows the umbo of the shell. (based on the type specimens illustrated in Lishike, 1874, Dunker, 1882, and Habe, 1952.)

干低い。

本種に類似するサザナミガイの殻は長円型で、前縁は丸い。後方へ向かい長く伸び嘴状になる。後縁はカワムラサザナミガイに比べ短く、後端部は裁断状になる。殻表面の肋は、後端部に多くなる。殻頂は前方に位置し、殻後端から約65%の位置する。後縁背面は曲線的で、後端部で狭くなることで異なる (Gould, 1861)。

シンテイサザナミガイの殻は楕円型で、前縁は丸い。後方へ向かい長く伸びるが嘴状にならない。殻頂は前方に位置し、殻後端から約66%に位置する。後縁背面が直線的で後端部は裁断状になることでカワムラサザナミガイやサザナミガイと異なる (Dunker, 1882)。シンテイサザナミガイは、Habe (1981) により和歌山県南部沖、水深200mをタイプ産地として記載された *Lyonsia tanakai* Habe, 1981 に対して提唱された和名であるが、Huber (2010) は、*L. tanakai* を、*L. praetenuis* のシノニムとしている。本報告では Huber (2010) の分類に準じ、シンテイサザナミガイの学名として *L. praetenuis* を用いる。

考 察

カワムラサザナミガイの記録は、タイプ産地である相模湾 (Habe, 1952) の他には、太平洋岸では紀伊半島、日本海沿岸域では能登半島沖、若狭湾と新潟県下越および中越海域 (Habe, 1952; Habe, 1981; 北村・阿部, 2001) から報告されているにすぎない。これまでに瀬戸内海からの記録はない (稲葉, 1988など)。

本種が採集された海域は、安芸津灘の水深約42mと芸予瀬戸の水深約27mの地点で、いずれもドレッジによる採集である。底質はそれぞれ礫混じりの砂、やや泥がちな砂であった。同時に採集された軟体動物は、安芸津灘では、アワジチヒロ *Volachlamys hirasei* (Bavay, 1904)、ナミマガシワ *Anomia chinensis* Philippi, 1849、スダレモシオ *Nipponocrassatella nana* (Adams & Reeve, 1850)、ホクロガイ *Oxyperas bernardi* (Pilsbry, 1904)、クチベニデ *Corbula venusta* Gould, 1861の5種、芸予瀬戸では、シマメノウフネガイ *Crepidula onyx* G. B. Sowerby I, 1824、アラレガイ *Nassarius conoidalis* (Deshayes, 1832)、マルミミエガイ *Didimacarc tenebrica* (Reeve, 1844)、ヤマホトトギス *Arcuatula japonica* (Dunker, 1857)、スダレモシオ、ワカミルガイ *Mactrotoma angulifera* (Reeve, 1854)、ユウシオガイ *Moerella rutila* (Dunker, 1860)、バラフマテ *Solen roseomaculatus* Pilsbry, 1901、クチベニデの9種が記録された。

本種のタイプ産地は相模湾の水深60-70mであるとされている (Kuroda *et al.*, 1971)。これは、今回の採集地点よりやや深いが、相模湾における浅海帯から漸深海帯の二枚貝の分布について報告した Okutani (2006) は、本種が水深100m以浅、およそ10-50mの砂または泥混じりの砂地に生息することを報告しており、筆者らの調査結果と一致する。また、Okutani (2006) は、カワムラサザナミガイと近似種であるサザナミガイが同所には生息しないことを報告している。今回の調査でも、カワムラサザナミガイが採集された海域からはサザナミガイは記録されず、両種は棲み分けをしている可能性が示唆される。

謝 辞

試料採集にご協力いただいた広島大学生物生産学部付属練習船豊潮丸の船長中口和光氏をはじめ船員各位、広島大学大学院生物圏科学研究科の西脇 瞳氏、Merry Sailonga Faluaburu 氏、谷口良太氏、村中 恭氏の各氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Dunker, G. 1882. Index Molluscorum Maris Japonici Conscriptus et Tabulis Iconum XVI Illustratus. Novitates Conchologicae. Abbildung und Beschreibung Neuer Conchylien Supplement VII. T. Fischer, Cassel, vii + 301 pp., 16 pls.
- Gould, A. A. 1861. Descriptions of shells collected by the North Pacific Exploring Expedition (continued).. Proceedings of the Boston Society of Natural History. Vol. 8: 14-40.

- Habe, T. 1952. Lyonsiidae, Poromyidae, Arcticidae and Gaimardiidae in Japan. Illustrated Catalogue of Japanese Shells. **1**(21): 153-160.
- Habe, T. 1981. A catalogue of molluscs of Wakayama Prefecture, The Province of Kii. 1. Bivalvia, Scaphopoda and Cephalopoda. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 7: xx + 301 pp.
- Huber, M. 2010. Compendium of bivalves. A full-color guide to 3,300 of the world's marine bivalves. A status on Bivalvia after 250 years of research. Hackenheim: ConchBooks. 901 pp.
- Higo, S., Callomon, P., Goto, Y., 1999. Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan. Elle scientific publications, Osaka : 749 p.
- 稲葉明彦, 1988. 増補改訂 瀬戸内海の生物相 II. 広島大学向島臨海実験所, 広島 : 406 p.
- Kuroda, T., T. Habe and Oyama K. 1971. The Sea Shells of Sagami Bay. Collected by His Majesty the Emperor of Japan. 741 pp. (Japanese part) 121pls. 489pp. (English part) + 51 pp. (index). Maruzen Co. Ltd., Tokyo.
- 北村晃寿・阿部和生. 2001. 日本列島沿いの日本海における二枚貝類の分布リスト. 静岡大学地球科学研究報告. **28** : 83-137.
- Okutani, T. 2006. Protobranchia and Anomalodesmata (Mollusca: Bivalvia) Collected in Shelf, Slope and Bathyal Zones in Sagami Bay, 2002-2004. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (40) 295-306.

**Record of *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952 collected from the Seto Inland Sea
(Mollusca, Bivalvia, Lyonsiidae)**

Atsuko KURAMOCHI¹⁾, Takashi KURAMOCHI²⁾, Akiko KOI³⁾, and Takeshi NAGANUMA³⁾

2-6-3-504 Ashina, Yokosuka, Kanagawa, 240-0104, Japan

Hayama Shiosai Museum, 2123-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa, 240-0111, Japan

³⁾ Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University 1-4-4 Kagamiyama,
Higashi-Hiroshima, 739-8528, Japan

Abstract Specimens of *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952 were collected from the Seto Inland Sea. The archived occurrences of this species have been recorded so far in Sagami Bay (type locality), Wakasa Bay, and off-Niigata. We hereby report that additional specimens were newly collected from the Seto Inland Sea.

Key words: *Lyonsia kawamurai* Habe, 1952, Mollusca, Bivalvia, Lyonsiidae, Seto Inland Sea